

熱田神宮界限を歩く

「名古屋の観光まちづくり」をテーマにした、今年度の社会調査実習は熱田神宮も調査対象とすることになった。2006年度の名古屋市内の主要32観光施設の入込客数は約2151万人であり、そのうち熱田神宮は約624万人と全体の3割近くを占めている。その7割近くは正月三が日を中心とした1月である。

調査メンバーの学生から報告をうけた後に、久しぶりに熱田神宮、「熱田さん」に行ってみた。まだ暑さがこたえる日であったが、広大な境内は大きな木、うっそうとした森のおかげで意外に涼しかった。暑い昼中なのに多くの観光客が散策しているのも意外だった。写真のように、ガイドボランティアの人が大楠の前で観光客に説明していた。



熱田神宮から宮の渡しに向かったが、国道1号線など広い道路に車が一杯であった。境内とは違って暑さと騒音がこたえた。長い横断歩道橋を渡っていくのも億劫になり、地下鉄に向かった。「名古屋の歴史・文化・まちづくりと観光」を考えるうえでも、熱田神宮とその界限も興味深い対象といえよう。



(2007年11月11日 記)